

《プロジェクト名：耕畜連携プロジェクト》

市町村	南陽市	対象地域	南陽市全域	分野	畜産（酪農）・粗飼料の作付拡大（転作の充実）
実施主体名	南陽酪農組合	代表者氏名	組合長 山口正	住所又は主たる事務所の所在地・連絡先	南陽市下荻98
実施主体構成	町内酪農家21戸				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	848,816千円（59,904千円）				
	独自の目標項目	自給粗飼料拡大 温室効果ガス削減				
各年次目標	現 状	1年目（H21）	2年目（H22）	3年目（H23）	4年目（H24）	最終年（H25）
	産出額	788,912千円	800,752千円	844,929千円	847,816千円	848,816千円
	独自の 目標項目	自給粗飼料拡大 温室効果ガス削減	WCS 0ha 稲ワラ55ha 2.6 t（55ha）	WCS3ha 稲ワラ60ha 3.0 t（63ha）	WCS5ha 稲ワラ70ha 3.6 t（75ha）	WCS10ha 稲ワラ70ha 3.8 t（80ha）
プロジェクト 概要	◎実施方針	即戦力たる初妊牛を導入し搾乳量増加ならびに2産目から雌雄判別精液を活用し後継牛の増頭を図る。また、耕畜連携の充実化により粗飼料作付を拡大し飼料自給率アップと転作所得の増加を図る。更にコントラクター組織を育成し耕作放棄地の削減と雇用創出を図る。				
	○産出額の増大	生乳51.7百万円・子牛6.2百万円・飼料作物2.0百万円（10a当り2万円×10ha）合計59.9百万円				
	○雇用の創出	経営安定化による大規模経営体（酪農）とコントラクター（飼料作物）による雇用創出。計約124人日。				
	○創意工夫	耕畜連携による相乗効果・飼料自給率の上昇・温室効果ガスの削減。				
	○実現性	現状打開意欲が畜産農家・耕種農家とも強く、当事業を導火線として高い実現性が期待できる。				
	○地域への波及効果	経済的効果の外、転作目標の達成、耕作放棄地の減少、稲ワラ焼却の削減、循環農業の実現に寄与。				
○その他	作業受託組織（転作集団）の充実により集団化等大規模経営化を促進できる。					

		実施年度（平成21年度）	実施年度（平成22年度）
	事業内容	耕畜連携の拡大・初妊牛40頭の導入と雌雄判別精液の拡大（新後継牛の確保）	耕畜連携の拡大・初妊牛37頭の導入と雌雄判別精液の拡大（新後継牛の確保）